

# 平成30年度 伊万里市立山代東小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
笑顔で 元気な 東っ子	① 「学び」の楽しさや喜びを味わわせ、学力の向上を目指す。 ② 感性を高め、思いやりに満ちた豊かな人間性を育成する。 ③ 基本的な生活習慣を身に付けた、心身共に健康で、たくましい児童を育成する。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

## 3 目標・評価

### ① 「学び」の楽しさや喜びを味わわせ、学力の向上を目指す。 ☆教務主任 文化部(研究主任) 特別支援担当職員

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・授業と家庭学習とのつながり ・基礎基本の確実な定着 ・ICT利活用教育の推進	・学級の実態に応じた指導に力を入れ、指導法の工夫改善に努める。 ・学力検査等において、県平均を上回る。 ・学習規律を身につけさせ、スキルタイムの継続により、基礎学力の定着を目指す。 ・授業の中で積極的にICT機器を活用する。	・言語活動等の表現活動を学習に位置づける。 ・学習過程に「書く」活動を位置づけ、表現力の向上につなげる。 ・全学年に算数ITの時間を確保し、基礎基本の向上に努める。 ・家庭学習は「学年×10+10」分を目標にする。 ・電子黒板を積極的に活用できるように配置する。	B	・学習規律を身につけさせるための一つの手段として「立腰」への取り組みを継続した。学習時間と休み時間の区別をつけ集中して学習に取り組むことができるようになってきた。学力検査等でも向上が見られてきた。 ・家庭学習への取り組みが今後の課題である。	・「ちゃんと週間」を毎月ごとに実施することで、家庭での学習時間や学習内容の見直しを行い、より良い学習ができるようにしていく。 ・「学年×10+10」分を目標にして取り組ませる。

### ② 感性を高め、思いやりに満ちた豊かな人間性を育成する。 ☆特活部(道徳主任)生徒指導担当教員 教育相談担当職員

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・心の教育3点セットの活用 ・道徳教育、生徒指導、教育相談の充実 ・たてわり班活動の充実	・一人ひとりの児童を大切に学級づくりを目指す。 ・学級経営や学校行事の中で、「心の教育3点セット」の活用を位置づける。 ・「ふれあい道徳」への保護者の参加率を80%以上にする。 ・たてわり班活動を通して、思いやりの心の育成を目指す。	・「挨拶・返事・時間を守る」ことに取り組んでいく。また、規範意識や思いやりのある言動を指導し、身につけさせる。 ・童謡歌集や「伊万里っ子くさ」を活用し、児童の情操を高める。 ・「いのちの教育指導資料」を活用した授業を行う。 ・たてわり班遊びやたてわり班掃除を計画し、異学年交流を通した思いやりの心の育成へとつなげる。	B	・「挨拶・返事・時間を守る」ことについては、月のめあてとして指導を継続してきたことで、子どもたちも意識ができていく。 ・「いのちの教育指導資料」を活用した授業を行うとともに、他教科や日々の学級活動などと関わらせて命の大切さについて考えさせることができた。 ・「伊万里っ子くさ」は教室に掲示したり、放送で紹介したりして日々の格言として活用している。 ・「ふれあい道徳」への保護者の参加率は80%を超えた。 ・運動会やななよしタイムなどたてわり班活動を通して異学年交流が深まり、お互いを思いやる行動が増えてきた。	・週1時間の道徳の授業を年間計画や児童の実態に基づいて各担任がきちんと取り組むことで、道徳的心情や実践力を高めることができた。 ・「いのち」に関わる授業は年に何回もすることはできないが、高学年では学級指導などでも活用できる。思いやりの言動を指導する上で、今まで以上に児童のよい言動を認め、ほめ、紹介していくことが大切だと思われる。

### ③ 基本的な生活習慣を身に付けた、心身共に健康で、たくましい児童を育成する。 ☆教務主任 保体部 生活部

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策							
教育活動	●健康・体づくり	・「歯と口の健康づくり」を通じた心身の健康意識の啓発と健康づくりの推進 ・食育の推進と充実 ・外遊びの奨励	・「歯と口の健康」に関する指導を通して、児童自身の心身の健康に関する実践力を高める。 ・1日3回の歯みがきを実施している児童100%を目指す。 ・栄養教諭・養護教諭を中心に、「食育」に力を入れる。 ・中休み、昼休みの外遊びを奨励し、外で遊ぶ児童80%以上を目指す。	・発達段階に応じた「歯と口の健康」に関する指導を計画的に行う。 ・家庭の関心を高めるため、歯科医師による保護者向けの講演を実施する。 ・給食試食会や食育たより等を通し、保護者に食育に関する啓発を行う。 ・外での集団遊びを紹介し、実践へとつなげる。	B	・学校全体で、生活リズムとして位置づけ、委員会活動でも放送等を利用して、学級の指導と合わせて推進した。全児童が身に付けている。 ・歯科講演会、給食試食会なども実施でき、相互の意見交換も叶った。・休みの時間の外遊びだけでなく、縦割りで遊ぶことも定期にできている。 ・縄跳びやマラソンなどの月間を設け、継続的に運動する機会になっている。・上学年限定になっているが、陸上相撲水泳バスケなどの放課後体育もできた。	・PTAだけでなく、児童も含めた健康教育講演会を計画する。 ・年間を通して、縦割りで活動も積極的に取り入れる。 ・今年度6年生が、チャレンジスポーツに挑んだように、ニュースポーツをみんなでも味わうのも、運動会とは一味違い、効果があると思う。 ・水泳大会の廃止で泳力や機会低下が心配。							
								○特色ある学校づくり	・「東っ子育成プラン」の推進 ・「家話の日」の推進 ・ふるさと「やましろ」を思う気持ちの醸成 ・活気ある学級集団の育成	・授業参観・学校行事等において保護者・地域と連携を図る。 ・「家話の日」や「家話の日」を通して、家族のコミュニケーションの深まりを目指す。 ・地域学習の推進 ・様々な学級活動を通して、一人一人が認められる学級集団を目指す。	・学校便り、学級便り、HP等による学校の教育活動に関する情報を発信する。 ・「家話の日」や「家話の日」の前日に情報委員会の放送により、各家庭で取り組むように呼びかけたり、音読カードに読んだ本や話した内容を記入させたりする。 ・生活科や総合・社会科等で地域学習を取り上げ学習する。 ・一人一人が認められる場を積極的につくる。	B	・学校便り、学級便り等による教育活動に関する情報を発信することができた。 ・HPの更新ができなかった。時間的な余裕がなかった。 ・地域を学習する機会が多く考えられ、各学年で実施されていた。 ・一人一人が活躍できる工夫が各学級で工夫され実践されていた。	・学校ホームページの更新をするにあたっては、更新の方法を研修するなどして、担当者1人にするのではなく、職員であれば誰でも更新できるような仕組みにする。

### 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入) ☆教務主任

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○保・小・中連携	・山代町内4保育園との連携 ・小中連絡協議会並びにPTA3校連絡会を通じた連携の充実	・確かな学力の定着をめざす。 ・豊かな心の育成をめざす。	・山代町3校の共通理解を図り、小中9か年の見通しを持ち立腰教育を実践していくことで、落ち着いた学習環境を作り、学力の定着を目指す。 ・楠久、久原、鳴石、さくら保育園との連携を図り、小1児童の授業参観や情報交換を行う。	A	・保小連携については、小学校授業参観及び情報交換会を6月に実施した。 ・小中連携では「立腰教育」を3校で継続して実施していくことができた。講演を聞くことができた。	・「立腰教育」への積極的な取り組みが継続して行われるようにしていくことが課題である。毎年、実践交流会等で3校の職員の共通理解が必要である。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目